

①感染症総合コース

1. 研修目標

本選択コースにおいては、一般内科医としての全身、呼吸器、消化器、骨・軟部組織、腎・泌尿器系、神経系などの各臓器感染症及び熱帯地で問題となる感染症に関する研修を行う。この選択コースにおける研修目標は、基本研修で修得した診察手技を活かして、これら感染症診療のための基礎的知識・技術を修得すること、指導医とディスカッションしながら、診断へのアプローチの仕方を体得し、適切な治療計画を立案、実施できるようになることである。

2. 研修指導体制

本コースは、感染症を担当する診療科及び検査部が共同で実施する新興・再興感染症を含む全身・各臓器感染症の専門医を目指す研修医のための研修プログラムであり、内科感染症診療、感染症検査、海外研修、各種セミナーから構成される。

- (1) 病棟では、指導医とともに、3～5人前後の熱研内科入院患者もしくは、他科からコンサルテーションのあった感染症症例を受け持ち、常に指導医との討論のもとに診療を進める。
- (2) 新患外来では予診をとり、教授、准教授及び外来担当医との討論を通じて鑑別診断及び治療法についても修得する。
- (3) 日常診療、抄読会、クリニカルカンファランス、学会発表を通じて医学文献の検索方法を学び、その理解力を高める。
- (4) 学生実習では指導医とともに、自分の担当患者を受け持った学生を指導する。

3. 研修指導責任者 有吉 紅也

4. 研修内容

(1) 研修の心構え

医師の倫理と義務及び患者へ応対と医療組織の中での役割認識の修得

(2) 診療における基本的事項と診察方法

- ①外来診療：指導医師の外来に同伴し外来診療を学ぶ。院内コンサルトの往診に同行し、各臓器の感染症症例を経験し、対応の仕方を学ぶ。
- ②病棟診療：入院患者診察、問題立案と検査計画及び検査手技、カルテ記載方法、オーダー方法、インフォームドコンセントの取り方、紹介状、診断書の書き方、的確なプレゼンテーションの仕方を学ぶ。
- ③保険診療：投薬や検査などについて保険診療の適応を学ぶ。

(3) 検査法

- ①検体採取（血液、髄液、胸水、腹水、胃液、骨髄液）とこれらの検体を用いたグラム染色及び抗酸菌染色法、定量培養、Diff-Quik 染色法、PCR 法
- ②体液（血清、尿、髄液・咽頭ぬぐい液）を用いた微生物抗原検出法（レジオネラ抗原、肺炎球菌抗原、インフルエンザウイルス抗原）
- ③病原微生物に対する血清抗体価測定法（マイコプラズマ、クラミジア・ニューモニエ、デングウイルス、レプトスピラ等）
- ④末梢血塗抹標本を用いたマラリア原虫染色法
- ⑤虫卵検査法
- ⑥薬剤感受性試験の評価
- ⑦気管支肺胞洗浄法（BAL）及びBAL液検査法

(4) 治療・予防

- ①細菌性呼吸器感染症に対する適正抗菌化学療法
- ②全身性感染症・敗血症に対する適正抗菌化学療法、全身管理
- ③肺結核症・非定型抗酸菌症に対する抗菌薬療法
- ④リッケチア症に対する抗菌薬療法

- ⑤梅毒・レプトスピラ症の治療
- ⑥腸管感染症に対する治療
- ⑦マラリアに対する治療・予防
- ⑧H I V感染症に対する抗ウイルス療法、日和見感染症の予防
- ⑨プリオン病、HAM、脳炎・髄膜炎に対する治療
- ⑩海外旅行前の予防接種

5. 研修到達目標

5-1 行動目標

医療人として必要な基本姿勢・態度

- (1) 医師は患者の心理的、社会的側面を十分に配慮し、医療スタッフと連携し、協力しあって医療を実践する。
- (2) 患者の問題を把握し、問題解決のための臨床的エビデンスを収集し、当該患者への適応を判断する。
- (3) 臨床研究や治験の異議を理解する。研究や学会活動にも参加する。
- (4) 安全管理、院内感染対策について、マニュアルに沿って行動する。
- (5) 患者・家族との信頼関係を構築し、診療内容に対する十分な理解が得られるようにインフォームドコンセントを実施する。
- (6) 保健・医療・福祉各方面のスタッフと連携し、社会復帰、在宅医療／介護を見据えた診療計画を作成する。

5-2 経験目標

A 経験すべき検査・手技及び医療記録作成

- (1) 細菌学的検査（グラム染色、抗酸菌染色、定量培養）
- (2) マラリア原虫染色、便虫卵検査など
- (3) 起炎菌決定、薬剤感受性試験の評価
- (4) 気管支鏡、経気管支肺生検(TBLB)、気管支肺胞洗浄(BAL)、BAL液処理と評価
- (5) 胸腔穿刺、胸腔ドレーンの挿入、胸水検査実施
- (6) 髄液穿刺、髄液検査実施
- (7) 医療記録：診療録、処方箋・指示箋、診断書や紹介状、連絡状をマニュアルに沿って正しく作成・管理する。
weekly summary、退院サマリー記載と適切なプレゼンテーション。
CPC（臨床病理カンファランス）レポートの作成と症例提示。

B 経験すべき疾患の診断・治療

本コースでは、新興・再興感染症を含む代表的感染症について研修する。

- (1) 全身性感染症及び呼吸器感染症に対する抗菌化学療法
- (2) 新興呼吸器感染症の診断と治療
- (3) 多剤耐性菌による感染症(MR S A, 緑膿菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌、ESBL など)の診断と抗菌化学療法
- (4) 腸管感染症の診断と抗菌化学療法（細菌性赤痢、腸チフス・パラチフス、アメーバ赤痢、ランブル鞭毛虫症）
- (5) 肺結核・非結核性抗酸菌症の診断と抗菌化学療法、法に基づく届出
- (6) H I V感染症の診断と抗ウイルス療法
- (7) リケッチア症の診断と抗菌化学療法
- (8) マラリアの末梢血塗抹標本による診断・抗マラリア薬治療
- (9) デングの臨床・ウイルス学的診断と治療
- (10) 梅毒の診断と駆梅療法、レプトスピラ症の診断と抗菌化学療法
- (11) 寄生虫疾患の診断と治療
- (12) 神経感染症（プリオン病、HAM、脳炎・髄膜炎）の診断と治療
- (13) 不明熱へのアプローチ

C 受講すべきセミナーなど

熱帯医学修士課程 (MTM) および熱帯医学研修課程

(1) 熱帯医学研究所にて行われる MTM・熱帯医学研修過程の講義の一部を聴講

(2) 病院にて行われる MTM の症例カンファにてプレゼンテーション、およびディスカッションに参加 (英語) する。

D 海外研修

マラリア、デング、腸チフス、レストピラ、エイズなどの海外臨床研修 (機会があれば、指導医に同行する形で考慮。費用は原則自己負担。)

